

生ごみ減量化のススメ！

毎日生活するうえで発生する生ごみ。燃やすごみとして出されるごみのうち、重量比で生ごみは、約5割を占めています。そこで、生ごみ減量化・資源化のために町が行っている補助の内容、地域の取り組み、家庭でできる食品ロスの削減方法などについてご紹介します。



▲電気式生ごみ処理機

その1 生ごみ処理容器等設置の補助

町では、一般家庭から出される生ごみを減量・堆肥化する処理容器（コンポストなど）や処理機（電気式）を購入設置した人に対し、補助をしています。この補助制度を利用して生ごみ処理容器などを購入してみませんか？

対象 町内在住で、生ごみ処理容器や処理機を設置した人

補助内容

- ・ 購入金額の2分の1（1000円未満端数切捨て）
 - ・ 補助限度額は、処理容器
1基…6,000円、
処理機1基 30,000円まで
 - ・ 1世帯につき処理容器は2基、処理機は1基まで
- この補助金を利用して設置した生ごみ処理容器や処理機がそれぞれ3年を経過して、損傷などで買い換える場合に限り、もう一度だけ補助金を受けることができます。

申請方法

購入日から60日以内に申請書を提出してください（領収書などを添付）。

補助金を利用して生ごみ処理機を設置した人の声

6月に生ごみ処理機を購入しました。それまでは、室内に生ごみを保管していましたが、夏場になると臭いになり、虫が発生して困っていたところ、友達から生ごみ処理機を勧められたので、思い切って購入しました。生ごみ処理機に生ごみを入れて乾燥させると臭いもなく、虫も出なくなりました。乾燥した生ごみは、プランターにプランターを置いて花を植えているので、その土と混ぜて使っています。

その2 地域ぐるみの生ごみ堆肥化

里区の曲松コミュニティホームでは、平成12年2月から町が設置した生ごみ堆肥化処理施設を使って生ごみ堆肥化に取り組んでいます。現在約30世帯が家庭から出た生ごみを投入しています。できた堆肥は地区の人が野菜づくりなどに利用しています。

地域の人の声

平成12年から生ごみの減量や堆肥化のために地域で取り組んでいます。施設の周辺の世帯が、毎週水・日曜日の午前7時30分から8時までの間に、台所から出る生ごみをレジ袋などに入れて、施設のあるコミュニティホームに持っていきます。はかりで計って重さを記録した後に、施設の投入口に入れます。

投入された生ごみは、攪拌と発酵を繰り返して、2カ月後に堆肥が完成します。その間には、水分を吸着するためのおが粉や、発酵を進めるために鶏糞を投入します。そして、2カ月前に投入された生ごみの分として170キログラムを、月の後半の日曜日に取出口から肥料として取り出します。取り出した肥料は、別のケースで一日乾燥させて利用しやすいした後で、鶏糞の入っていた袋に小分けにして、施設の前に置いておき、希望者に無料配布しています。

こうした作業は地元有志5人が中心になって行っていて、毎年堆肥は約2トンできます。家庭菜園や草花等のプランター用として利用されたきた野菜や草花の生育がとても良いです。



その3 家庭でできる食品ロスの削減

食品ロス削減に関する
質問にお答えします！

食品ロスとは？

食品ロスとは、まだ食べられる状態であるにも関わらず捨てられてしまう食品のことです。食品ロスの約半数が家庭から出ています。

どれくらいのお食べ物 食品ロスとして捨てられているの？

日本では、年間約632万トン（家庭、事業所などすべての合計）にもおよぶ食品ロスが出されています。これは1人当たり1日お茶碗約1杯分（約136グラム）のお食べ物捨てられている計算になります。

どんな時に家庭から 食品ロスが発生するの？

こんな時に家庭から食品ロスが発生します。

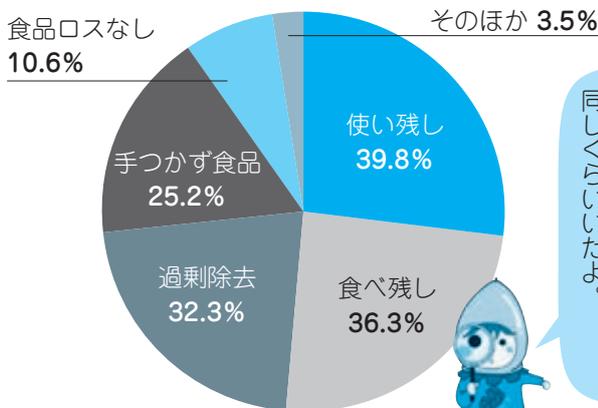
- ①料理に使いきれずに捨てられたもの ↓ **買い過ぎ**
- ②賞味期限や消費期限が切れて捨てられたもの ↓ **期限切れ**
- ③料理のときに食べられる部分が捨てられたもの ↓ **過剰除去**
- ④食べきれずに捨てられたもの ↓ **食べ残し**

買い過ぎ、期限切れ、過剰除去、
食べ残しがないように気を付ければ
食品ロスを削減できるんだね。



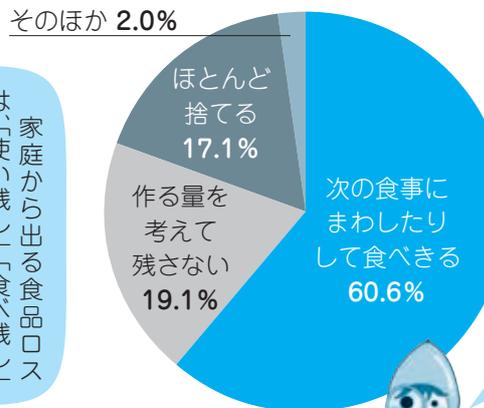
昨年11月に開催の「こうた産業まつり」において、幸田町生活学校が食品ロスアンケートを実施しました。回答人数は男性19人、女性179人、合わせて198人です。アンケート結果の一部をご紹介します。

家庭内の食品ロス



* 複数回答可。

食べ残した時の処理



食べ残しのアンケートでは、「次の食事にまわしたりして食べきる」「作る量を考え残さない」と答えた人が約8割を占めたんだ。

家庭から出る食品ロスは「使い残し」「食べ残し」「過剰除去」と答える人が同じくらいだよ。

アンケート結果は町ホームページに掲載していますので、ぜひご覧ください。

「もったいない」運動始めました！

食べきれない方は、
量を調整できますので
お申し付けください。

「もったいない」をあいことばに食品ロス削減運動を始めました！



* 料金は定価です。

残さず 食べりん戸

食べものに、もったいないを、もういちど。
NO-FOODLOSS PROJECT

役場の食堂で「もったいない」運動を行っています。

役場の食堂では、食品ロス削減のため「残さず食べましょう」を呼び掛けています。

問合せ 環境課ごみ対策グループ

☎(0564)62-1111(内線2773)
FAX(0564)63-5169

皆さんも「もったいない」運動を実践してみましよう！